
ロシア史研ニューズレター

ОБЩЕСТВО ИССЛЕДОВАТЕЛЕЙ ИСТОРИИ РОССИИ
No.78 July 2010

ロシア史研究会 2010年度大会案内 立教大学で10月16日（土）、17日（日）に開催

すでにお知らせしたように、ロシア史研究会 2010 年度の大会は、10 月 16 日(土)、17 日(日)の両日に立教大学（池袋キャンパス）で開催されることになりました。

大会プログラムの概要をお知らせします。なお、大会にかんする事務的な事項でのお問い合わせは、[jssrh-office\(at\)tufs.ac.jp](mailto:jssrh-office@tufs.ac.jp) 宛にお送りください。



立教大学池袋キャンパス正門と本館/立教大学広報課提供

大会プログラム

10月16日（土曜日）・17日（日曜日）立教大学池袋キャンパス14号館

第1日目 10月16日（土曜日）

自由論題報告 10時00分～12時55分

<A会場>（D401教室）

報告1（10時00分～10時55分）

渡辺大作（東京大学大学院）

「ラッフィの小説における「アルメニア」と「ロシア」

コメント：吉村貴之（東京外国語大学・非常勤研究員）

報告2（11時00分～11時55分）

田中まさき（新潟県立大学・非）

「イヴァン・ピリエフの幻の『雷帝』プロジェクト」

コメント：塩川伸明（東京大学）

報告3（12時00分～12時55分）

神長英輔（東京大学・非常勤研究員）

「コンブの道—サハリン島と中華世界」

コメント：森永貴子（立命館大学）

<B会場>（D501教室）

報告4（10時00分～10時55分）

乾雅幸（関西大学大学院）

「ロシア革命と「ロシアのドイツ人」—ウクライナのドイツ人、シベリアのドイツ人の動向を中心に」

コメント：半谷史郎（愛知県立大学・非）

報告5（11時00分～11時55分）

鶴見太郎（日本学術振興会特別研究員）

「帝政末期のロシア・シオニズムにおける反本質主義—社会学的思考がパレスチナに向かうとき」

コメント：竹中浩（大阪大学）

報告6（12時00分～12時55分）

辻義昌（早稲田大学）

「ロシア第二革命期における労働運動の盛衰」

コメント：池田嘉郎（東京理科大学）

共通論題1 14時00分～17時00分 (D401 教室)

「ロシアと東アジア世界—19世紀半ばから20世紀初頭の展開」

報告：和田春樹 (東京大学名誉教授)

ディヴィッド・ウルフ (北海道大学)

中見立夫 (東京外国語大学)

コメンテータ：ヤロスラフ・シュラトフ (日本学術振興会特別研究員)

岡本隆司 (京都府立大学)

司会：横手慎二 (慶應義塾大学)

総会 17時10分～18時00分 (D401 教室)

懇親会 18時00分～20時00分 (第一食堂1階)

第2日目 10月17日 (日曜日)

パネル 10時00分～12時00分 (D401 教室)

「「共産主義建設期」のソ連における国家と社会 (仮)」

報告：松戸清裕 (北海学園大学)

松井康浩 (九州大学)

河本和子 (立教大学)

コメンテータ：中地美枝 (北海道大学)

司会：宇山智彦 (北海道大学)

共通論題2 13時30分～16時30分 (D401 教室)

「啓蒙と専制」

報告：橋本伸也 (関西学院大学)

鈴木直志 (桐蔭横浜大学)

鳥山祐介 (千葉大学)

コメンテータ：土肥恒之 (一橋大学名誉教授)

司会：巽由樹子 (日本学術振興会特別研究員)

<ロシア史研例会報告>

<例会 (ロシア史研・ソビエト史研共催) 2010年6月>

志田仁完氏 (一橋大学経済研究所附属ロシア研究センター研究支援推進員)

「ソ連構成共和国における第二経済—規模の推計の試み」

日時：2010年6月26日(土) 午後3時

会場：東京大学弥生総合研究棟 研究会室Y505号室

以下は、報告なされた志田氏による報告要旨です。

志田仁完

研究会では、1969-1988年におけるソ連邦および構成共和国における第二経済の規模を推計し、共和国間比較を試みた結果を報告した。

先行研究では、ソ連において第二経済が存在すること、それが拡大しつつあることなどが、新聞や雑誌などによるアネクドータルな事実や移民へのインタビュー調査をベースとして議論されてきた。しかし、そこでの主張は、資料の性格および制約により、その対象時期や地域が限定されていたこと、したがって一時点における地域間比較や時系列的推移の検証が難しかった。ソ連崩壊後の資料公開の進展に伴い、第二経済に関する研究も進展し、ソ連全体に関する長期推計が行われているとはいえ、連邦構成共和国レベルの分析はいまだに十分には行われていない。

そこで、これまで利用されていないロシア国立経済文書館（RGAE）所蔵の共和国レベルの住民貨幣収支バランスと家計調査資料を用いて、家計統計を整備・データベース化し、それに基づいて第二経済の規模を推計した。また第二経済を、現物経済、市場取引に分け、また市場取引の中からさらに「第二市場」を抽出し、構成要素を分解して分析を行った。

その結果、ソ連全体の傾向としては、総所得・総支出に比して第二経済の規模の拡大は緩慢であり、相対規模でみた場合には、むしろゆっくりとした縮小傾向さえ観察された。ただし、その中でも「第二市場」要素の拡大はより急速であった。次に、クラスター分析によって連邦構成共和国を4つに分類し、グループ間の比較分析を行った。ここでは、第二経済の規模、時系列的推移、構成要素に関して、グループ間に大きな差がある、という新たな事実発見があった。グループは、(1) ロシア、カザフスタン、ラトヴィア、エストニア、(2) ウクライナ、ベラルーシ、リトアニア、モルドヴァ、(3) アゼルバイジャン、キルギスタン、タジキスタン、アルメニア、トルクメニスタン、(4) ウズベキスタン、グルジアの4つであり、ソ連自体を分析に含めると、(1) グループに分類される。確認される事実は以下3点である。第一に、グルジア・ウズベキスタンの最大規模のグループはロシア等の最小グループの2倍の規模の第二経済を有している。第二に、時系列的推移をみると、ソ連全体において見られる相対規模の緩やかな縮小傾向は、ロシアが含まれるグループには当てはまるが、他のグループではより動的な変化が見られ、必ずしも趨勢的な縮小を示したわけではなかった。第三に、第二経済の拡大期・縮小期における構成要素が果たす役割が異なることが示唆される。特に、ウクライナ・ベラルーシ等のグループにおける現物経済部門の大きな役割は他グループには見られない。

<名簿係より> 2010年11月以降の新入会員（5名、入会日順）をお知らせします。

佐々木路子（2009年11月20日入会）

所属：ユーラシア研究会など

専攻・テーマ：17世紀シベリア地図製作

齋藤眞（2010年3月24日入会）

所属：日本政治学会

専攻・テーマ：ロシアにおける民主主義の可能性／ロシアの政治思想

鶴見太郎（2010年3月16日入会）

所属：日本学術振興会特別研究員PD（立教大学）

専攻・テーマ：ロシア・ユダヤ史・シオニズム史、歴史社会学

渡辺大作（2010年4月2日入会）

所属：東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻博士課程

専攻・テーマ：アルメニア近現代史

貝田真紀（2010年6月10日入会）

所属：筑波大学人文社会科学部研究科現代文化・公共政策専攻博士一貫課程

専攻・テーマ：政治学・現代ロシアの市民社会、福祉体制の研究

<事務局より>

ロシア史研究会宛に以下の書籍の寄贈がありました。ありがとうございました。

宮崎悠『ポーランド問題とドモフスキ：国民的独立のパトスとロゴス』北海道大学出版
会、2010年2月、xv+318+19ページ 6,000円

Аспект русского мира: культура, история, политика и экономика / Университет Васэда,
Институт российских исследований. Токио. -2010. -139 С.

藤原潤子『呪われたナターシャー現代ロシアにおける呪術の民族誌』人文書院、2010
年6月、270ページ、2,800円

ロシア史研ニューズレター

第78号 2010年7月28日発行

編集・発行 ロシア史研究会委員会

〒183-8534

東京都府中市朝日町3-11-1

東京外国語大学外国語学部

鈴木義一研究室気付
